



人事を尽くして天命を待つ

校長 岩本 眞由美

立春も過ぎ、一雨ごとに暖かさが増してきました。学校では、次年度に向けた様々な準備が進んでいるところです。3年生は受験が終わり進路が決定した人、これから受検を目前に控えている人がいます。出願した一人一人の生徒が、自分の不安と戦っています。

さて、「人事を尽くして天命を待つ」という言葉があります。この言葉は、中国の「読史管見（とくしかんけん）」という書物が出典の故事成語だそうで、人としてやれることを全てやり尽くして、後は天の運命に任せるという心境を語った言葉と言われています。

また、元プロ野球選手の松井秀喜さんの著書の「信念を貫く」の中にも、コントロールできないことについて、参考になる考え方が述べられています。

松井秀喜著 「信念を貫く」

- ① 自分がコントロールできることと、できないことを分けて考える
- ② コントロールできることについては、結果につなげるべき努力をする
- ③ コントロールできないことについては、囚われない



思うように成績が伸びなかったときマスコミからは酷評されます。そんなとき、松井さんは「自分でコントロールできない」には囚われず、黙々と練習する中で「自分がコントロール可能なこと」に集中して努力を続けていたそうです。高校受験に限らず、社会人になってからも人生の岐路に立たされたとき、「人事を尽くして天命を待つ」という気持ちで、目の前の困難を乗り越えてほしいと思います。明るい未来を信じて、今できる事に集中しましょう。東原中学校の教職員全員が、皆さんを応援しています。

「かげぼめ」を広げましょう

「かげぼめ」という言葉をご存じですか。恥ずかしながら、私は先日、新聞に載っている中学生の投稿で知りました。

そもそも「陰口」は良く聞く言葉です。本人のいないところで悪口を言うことです。一方で「かげぼめ」は本人がいないところでほめることをいいます。

かげぼめの効果は3つです！

- ① 相手のモチベーションが上がる
- ② 自分の人生がよくなる
- ③ 周りから信頼される

言葉は伝染します。マイナスなことを話せばマイナスに、プラスのことを話したらプラスに働きます。

令和5年度 杉並区教育調査アンケート 結果報告

本校の教育目標及び学校経営計画の達成状況を把握するため、令和5年度杉並区教育調査アンケートを行いました。年末年始の忙しい時期、多くの保護者の方にご協力いただきありがとうございました。保護者、地域、そして生徒を含めた皆様のご意見を来年度の教育活動に反映させ、より連携、協力しながら学校をより良くしていきたいと考えています。回答の「5：とても思う」と「4：思う」の割合を肯定率として数値で表しています。

		質 問	肯定率			
保 護 者	1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできているが増えている	55.0%			
	2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	67.9%			
	3	子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	46.8%			
	4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	54.1%			
	5	連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている	29.4%			
	6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	50.5%			
	7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	30.3%			
	8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	42.2%			
	9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	56.0%			
	10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	74.3%			
	11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	40.4%			
	12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	35.8%			
	13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	21.1%			
	14	子どもは、学校生活を楽しんでいる	75.0%			
	15	子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている	66.7%			
	16	学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している	28.6%			
生 徒		質問	1学年	2学年	3学年	全体
	1	先生は、クラスのみんなが分かりあい、協力し合えるようにしてくれている。	64.5%	77.0%	86.2%	75.7%
	2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	45.2%	42.6%	39.7%	42.5%
	3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	35.5%	49.2%	32.8%	39.2%
	4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	33.9%	49.2%	41.4%	41.4%
	5	授業では、自分が必要なときに、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	67.7%	77.0%	81.0%	75.1%
	6	学校の授業によって、分かることやできているが増えている。	75.8%	78.7%	77.6%	77.3%

	7	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを 教えてくれたりする。	69.4%	73.8%	67.2%	70.2%	
	8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	87.1%	82.0%	96.6%	88.4%	
	9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とど のようにつながっているか、教えてくれている。	61.3%	72.1%	72.4%	68.5%	
	10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共にによりよく生きること の大切さについて、みんなで話し合っている。	77.4%	70.5%	87.9%	78.5%	
	11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	56.5%	75.4%	65.5%	65.7%	
	12	学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料 などを読んだ。	77.4%	60.7%	72.4%	70.2%	
	13	地域の行事に参加している。	32.3%	45.9%	36.2%	38.1%	
	14	先生は、地域の人たちと協力し合いながら、授業や学校行事をより良 くしてくれている。	45.2%	60.7%	46.6%	50.8%	
学校運営協議会		質問					肯定率
	1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探 究したりする力が育っている	66.7%				
	2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を 補い合ったりする力が育っている	66.7%				
	3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っ ている	66.7%				
	4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の 団体や企業等と連携している	66.7%				
	5	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちに よって、その時々学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている	83.3%				
	6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様 な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	33.3%				
	7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子 どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している	100.0%				
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であること を実感しながら、自分たちで考えたり教職員(学校関係者を含む)と話し合ったりしている	83.3%					

○保護者、生徒共に「個別最適な学び」の学習の個性化及び指導の個性化に関して肯定率が低い傾向にある。生徒に至っては学年が上がるにつれて低くなっている。今後、校内研修などを活用して教員の指導力向上が必要であると考え。授業でのICTの使用に関して高い肯定率であるが、一時間の授業の中での生徒の使用に関してはまだまだ改善しなくてはいいけないと考える。

○保護者の「連携する小・中学校による小中一貫教育」や「通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流し」、生徒の「地域の行事に参加」といった地域の方々との協働に関しての肯定率が低い傾向にある。小中一貫教育に関しては「6年生の部活動体験」や「6年生と本校3年生の地域清掃」、「先生方の研修」などの取り組みを行った。コロナ禍で自粛していた活動が徐々に元の状態に戻ってきていることから今後様々な交流や地域の行事への参加など、情報発信をしっかりと行っていければと考える。

○学校運営協議会の方で肯定率が低かった項目は「教室や校舎」に関する項目でした。次年度以降、教育委員会と協議しながら学習環境を改善する。また、教員の指導力(教科、道徳、行事等)に関しても高い評価とは言い難い部分がある。専門性だけでなく、道徳なども含めた個々の指導力を校内研修等を活用し向上させる。

【2・3月の主な予定】

2月17日(土) …土曜授業 新入生保護者説明会	7日(木) …合同体育(3年) 避難訓練
19日(月) …朝礼 スピーキングテスト(1, 2年)	11日(月) …生徒朝会 安全指導
26日(月) …学年末考査 ～28日	講演会(3年)
28日(水) …安全指導 専門委員会・学校委員会	13日(水) …卒業式予行
3月 2日(土) …土曜授業 学習発表会 保護者会	16日(土) …卒業式
4日(月) …振替休業日	25日(月) …修了式
5日(火) …地域清掃(3年、杉九小6年生)	26日(火) …春季休業日始 4月8日(月) 始業式

※今月の主な予定は発行時点のものです。社会情勢等の変化により、変更となる場合があります。

教育活動の紹介

大きな予定の変更などは、学校配信メール等でお伝えします

【セーフティ教室1月13日(土)】

1月13日(土)の3校時、薬物乱用防止教室を行いました。

“杉並のこどもを薬物からまもる会”の吉橋正美さんの司会進行のもと、薬物依存症からの回復を目指す施設(東京DARC)の職員であり、薬物依存の当事者でもあるかたから、薬物にハマってしまった経緯や、それによって身も心も“死んでしまった”ともいえる



人生のどん底状態の話、そしてどのような人生を送ることになるのか、そして、薬物依存は回復しても決して治らないものであるということを、実体験をもとに話をしてくださいました。また、薬物専門講師の六車貴美子さんから、薬物が中高生にも広がっていることの状況や薬物が心身(特に脳)に与える影響についてお話がありました。

ダメと分かってはいても、人間関係を崩したくない、一度くらいなら…と、誰しもがもつ、ちょっとした心の弱さやずき間を巧みに利用して、薬物に手を出してしまうきっかけは近づいてきます。薬物には絶対に手を出さない、どんな状況でも、“NO”という強い気持ちをもつことが大切だということを学びました。

【校外学習1月30日(火)】

2学期の期末考査が終わると同時に、校外学習に向けたさまざまな準備を進めていきました。そして迎えた1月30日の校外学習当日、晴天のなか、満員電車に乗り、長い道のりを歩き、上野、浅草、両国の文化施設や寺社仏閣、文化財、史跡などを巡りました。たった1日の校外学習を通して、遊びではなく、学校では得られないさまざまな学びに出会うことができました。班行動、迷い道、買い物、満員電車…多くの言葉よりも、自分で体験することはどんなことよりも大きな収穫です。教科書に出てくるキーワードや人物、事前に学習したことを自分の目で見て確かめたり、たくさんの発見や驚きに出会ったりと、上野、浅草、両国を満喫しました。満員電車に、観光客でにぎわう仲見世通り…人の多さに驚いたことも、大切な思い出の1ページです。



杉並区立東原中学校 学校だより「ひがしはら」

Tel : 03-3390-0148 Fax : 03-3390-3588

【留守番電話対応 18:30～7:30】